一人一台タブレット端末時代の授業づくり

~「英語拠点校・協力校事業」「学びの保障・充実のための 学習用デジタル教科書実証事業」を通して~

由利本荘市立本荘南中学校 池田 勇作

1 令和3年度「拠点校·協力校英語授業改善事業」

本年度、本校では鶴舞小学校とともに上記事業に指定され、授業改善を行った。主な目的として以下の4点が挙げられる。

- (1) 児童生徒の英語による言語活動の充実(時間と増加と質の向上)について
- (2) 指導の改善及び評価の在り方について

特に中学校では

- (イ)「CAN-DOリスト」形式で設定した学習到達目標を活用した授業改善に取り組むこと(公表及び達成状況の把握を含む)
- (ウ) 「即興で話すこと」及び「ALT を活用したパフォーマンステスト」を中心とした研究に取り組むこと。
- (3) 外国語活動・外国語(英語)担当教員の英語力及び指導力向上に向けた具体的な取組について
- (4) 校種間の連携の在り方について

本校では特に、(2)(イ)(ウ)に関して授業実践やその検証を重ねた。また、本年度から新学習指導要領に対応した教科書での授業となり、教科指導を改めて見つめ直す1年となった。一方で生徒は、令和3年度から一人一台タブレット端末を使えるようになった。授業で使用したデジタル教材の成果と課題を整理し、外国語教育における効果的なICT活用に関して考察したい。

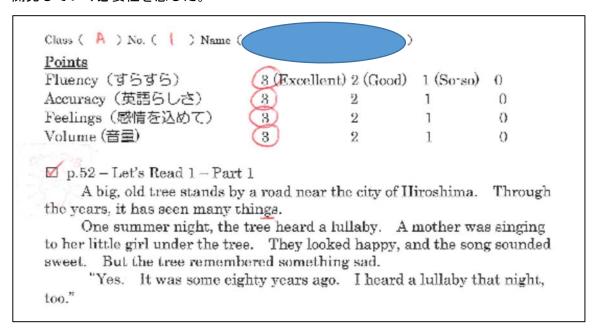
2 タブレット端末を利用した音読練習、パフォーマンステスト

NEW HORIZON English Course 3 Let's Read 1 "Mother's Lullaby"での実践を紹介したい。全5時間計画で、単元のゴールを「A Mother's Lullaby を読んで、場面の変化や登場人物の心情などを理解し、気持ちを込めて音読することができる。」と設定した。指導の流れは以下の通りである。

- ①パートを4つに分け、音読したい場面を1パート選択する。
- ②タブレット端末のデジタル教科書を使い、個人練習。必要に応じて、録音機能も利用 する。
- ③4人班でのグループ発表会で、お互いに評価、アドバイスし合う。
- ④最終発表をタブレット端末に録音。ALT. JTE が後日評価する。

【実際に生徒に配付した評価シート】

JTE, ALT とで共同で評価シートを作成し、一人一人にフィードバックした。ルーブリックに関しては、指導者側、生徒側双方で取り組みやすいもの、評価に使いやすいものを開発していく必要性を感じた。



3 教師用デジタルブック、生徒用デジタル教科書の活用

教師用デジタルブックを活用することで、次のような成果(○)と課題(△)が見られた。

- 〇指導者は板書や説明時間の短縮
- 〇写真やイラスト, 関連動画等の活用により, 英語で授業をすることを支援
- △生徒の理解度を確認しながら進める必要あり
- △テンポよく進むことによる下位生徒への配慮

また、生徒用デジタル教科書を活用することで、次のような成果(○)と課題(△)が見られた。

- ○自分のペースで音読練習(音読スピード、練習回数等)が可能
- △タブレット端末が動かなかったり, 起動に時間がかかったりする不具合も時々見られ, バックアッププランが必要な場面も
- □共有機能の理解や、活用による英語力の向上
- 4 デジタル教材の活用の成果(○)と課題(△)
 - ○様々な機能を器用に使う場面の増加
 - 〇一人一台端末があることで調査活動の時間確保
 - 〇インターネットを介したオーセンティックな教材へのアクセス
 - △「言語活動の更なる充実」のための活用方法の模索
 - △翻訳機能の活用方法
 - …翻訳機能の活用に関して、紙媒体での辞書と変わらない活用ではもったいないということや、visual aid として効果的に使うための方策も研究が必要。
 - △各教科文房具ぐらい手軽に使える環境作り